

令和３年度町政運営基本方針並びに予算編成について

【町政運営基本方針】

私が町民の皆さまの負託を受け、町政のかじ取りを行うようになり、間もなく８年になります。

この間、希望の持てるまちを後世に引き継いでいくため、町が抱える人口減少に向き合うべく策定した「定住人口増加プロジェクト」を筆頭に「地域経営計画2016」、「総合戦略」等、各種計画を策定し、困難な局面を打開し、地方創生を実現するべく、子ども医療費の18歳までの無償化、小中一貫教育を充実させた東小学校の建替え、西小学校の大規模改修、小中学校のＩＣＴ環境の整備、キリンビール所有地への企業誘致、「元気あっぷむら」の「道の駅たかねざわ元気あっぷむら」としてのリニューアル、操業停止となった土づくりセンターの再建への道筋をつけたこと、創業施設クリエイターズデパートメントの整備、ロックサイドマーケットの開催、コロナ禍における事業者への緊急支援資金制度の創設や衛生管理対策としての水道基本料金減免など数々の先駆的な取り組み、といった確実な成果を得てまいりました。

「新年のあいさつ」でも触れさせていただきましたが、令和３年度は昭和３３年の町政施行以来、最も経営困難な状況が見込まれます。これを裏付けるように2020年の実質GDP成長率は、前年比4.8%減、11年ぶりのマイナス成長と報じられ、日本経済への打撃が大きかったことが示されました。

しかし、町政運営は、「環^{たまき}の端無きが如し」と申しますように、あらゆる課題が巡っており、いかに困難な状況であろうと終わりはありません。終わりがいいからこそ、困難な状況にあるからこそ、中長期的な視点で町民皆さまの生活実感を上げるための施策をつなぎ続ける必要があると考えております。

そのために、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた対応を第一としながら、ニューノーマルに対応したサステナブルな町を築き上げていくため、SDGsの理念、目標との整合を図るとともに、将来的に必要なゼロカーボンシティの実現に向け「地域経営計画 後期計画」の策定を進めております。

そのような中で、令和3年度当初予算につきましては、新型コロナウイルス感染症による税収等への打撃が大きく、大幅な減収を見込まなくてはならない状況にあるため、歳出事業をゼロベースから見直すことで無駄の排除を徹底し、限られた財源を必要不可欠な住民サービスの提供や、災害など不測の事態への対応を想定し編成するといった、事業の選択と集中を心がけました。

私はこの選択と集中の本質は「何を軸に運営するか明確にすること」だと、とらえております。

最少の経費で最大の効果を上げる必要がある町政運営においては、まさに町政運営の軸をはっきりと認識していなければなりません。

だからこそ、どのような状況にあっても、私は『未来へつなげるまちづくり』を軸とし、経営者の視点と柔軟でスピーディーな決断により、多くの課題に取り組んでまいりたいと考えております。

【予算編成について】

続きまして、令和3年度予算の概要について、ご説明申し上げます。

まず、一般会計でございますが、予算規模は、103億9千万円であり、前年度予算の107億6千万円と比較いたしますと、3億7千万円の減額、率にして3.4%の減となっておりますが、予算総額は過去3番目の大規模となっております。

次に、各特別会計の予算額と前年度予算額との比較について説明いたします。

- ・国民健康保険特別会計は、26億2,864万8千円となり、被保険者数の減少等に伴う国民健康保険事業費納付金の減少により、0.3%の減となりました。

・後期高齢者医療特別会計は、2億9,051万5千円となり、被保険者数の増加に伴う後期高齢者医療広域連合納付金の増加により、1.7%の増となりました。

・介護保険特別会計は、23億5,283万円、サービス利用者の増加に伴う保険給付費の増加により、0.6%の増となりました。

・宝積寺駅西第一土地区画整理事業特別会計は、6,050万5千円、50.1%の減となりました。なお、令和4年度に事業完了の見込となっております。

続きまして、公営企業会計につきましては、収益的支出と資本的支出を合わせた予算規模になりますが、

・水道事業会計は、7億9,674万円、10.8%の増となりました。

・下水道事業会計は、16億1,925万9千円、15.3%の増となりました。

なお、下水道の整備率につきましては、令和2年度末では78.2%の見込となっており、令和3年度実施予定の整備面積を含めると80.1%となる見込みとなっております。

以上、7会計を合わせた令和3年度の予算総額は、181億3,849万7千円となり、前年度と比較しますと、1億2,800万6千円の減額、率にして0.7%減の予算編成となりました。

続きまして、地域経営計画の分野別事業を中心に説明させていただきます。

・一つ目の「子ども・教育・生涯学習」分野です。

まず、総合戦略にも掲げる人口の自然増加の目標に向けた子育て施策については、結婚を後押しするため町の資源を活用した結婚活動推進事業の実施、不妊治療費の助成を通して不妊治療に取り組む夫婦の支援、町内で安心して子どもを産み育てられる環境を整備するための産科誘致補助事業や子育て世代包括支援センターなどを継続するほか、民間保育園の園舎整備へ財政支援を行い、潜在的待機児童の解消や子育て環境の充実等に取り組みます。

次に、「確かな学力の育成」については、国の GIGA スクール構想の実現に向けて、令和2年度中に「児童・生徒 1 人 1 台タブレット型パソコンの整備」が達成されましたので、Society5.0 時代を生きる子どもたちの学力向上へ向け ICT を最大限活用した授業に積極的に取り組むとともに、ICT 支援員を配置し、指導者及び児童生徒が学習に集中できるよう環境面の支援を行います。

さらに、キャリア教育事業として、勤労観、職業観を育むため、小中学校9年間を見通したキャリア教育計画に基づき、キャリアパスポートを活用し、系統的、継続的な学習に取り組めます。

次に、「生涯スポーツの推進」については、令和2年度に引き続き町民広場陸上競技場の改修を行うことで、利用しやすい環境を提供するとともに、新たに体力づくりスポーツ事業として、ラジオ体操やウォーキングを取り入れ、新しい生活様式に適したイベントを開催することで、スポーツや体を動かす機会の向上を図ります。

また、令和4年度開催予定のいちご一会とちぎ国体に向け、安全安心な大会が開催できるよう会場となる町民広場への防犯カメラの設置などの準備に着手します。

・二つ目の「住民生活・福祉・環境」分野です。

まず、「住民生活」については、新型コロナウイルス感染症対策を万全なものとするため、町民の皆さまへの注意喚起の徹底、手指消毒用アルコールや石けん、マスク、フェイスシールド等の在庫確保をするとともに、感染状況に応じた柔軟な対応を実施してまいります。

次に、「高齢者の生活支援」については、80 歳以上の方の「たんたん号」利用料の無料化を継続し、外出を支援するとともに、第8期介護保険事業計画に基づき、地域密着型特別養護老人ホームを整備する法人に対し、財政支援を行うことで入所待機者の解消に努めます。

また、「障害者の生活支援」については、福祉有償運送の利用者に対して利用料の一部助成を継続し、障害者の外出を支援することで社会参加の促進や福祉の増進等を図ります。

次に、「健康づくり」については、新たに健康ポイント事業を開始し、ポイントを付与することで、町民が積極的に健康づくりに取り組むきっかけを作り、「健康寿命の延伸」を図ります。

次に、「環境」対策については、容器包装プラスチックごみの月1回のステーション回収を月2回に増やすことで、さらなる可燃ごみの減量化と廃棄物のリサイクルに取り組めます。

- 三つ目の「都市整備・上下水道・産業」分野です。

まず、「住環境」については、駅西第二地区の整備として、宝積寺西通り整備事業で都市計画道路の整備方針の検討や所有権移転に関する業務等を実施します。

次に、「道路や橋の老朽化」については、JR跨線橋4橋を含めた橋梁点検を実施します。

次に、「下水道」については、下水道整備の令和7年度完了を目指して宝積寺処理区の管渠整備や宝積寺アクアセンター処理場増設など下水道施設の工事を実施します。

次に、「産業分野」については、防災重点農業用ため池の決壊による水害等から住民を守るため、長寿命化計画の策定や安全評価を実施します。

また、土づくりセンターの再稼働に向け発酵棟施設などの整備を実施し、循環型農業を推進するとともに、農作業の自動化を見据えたスマート農業の在り方の研究にも取り組んでまいります。

- 四つ目の「町政運営・地域安全・地域自治」分野です。

まず、「防災」については、令和2年度の防災無線デジタル化工事完成に合わせて購入した戸別受信機を、令和3年度に難聴区域や要援護者などに配備するとともに、自主防災組織の資機材購入支援に加え、活動費用の財政支援を行います。

次に、「情報発信」については、令和2年度から令和4年度にかけて「とちぎの星」を活用したプロモーション事業を実施し、令和3年2月に放映した石川恋さん主演のCM「とちぎの星！新米刑事！」を一過性のものとしないうちに、引き続きインパクトのあるメディアプロモーションのほか、イベント開催、マーケティング調査等に取り組み、関係人口の創出や魅力あるまちづくりの実現を図ってまいります。

- 令和3年度予算についての概要説明は、以上のとおりでございます。

【結び】

先に述べましたとおり、令和３年度は町政施行以来、最も経営困難な状況が見込まれます。

このような状況だからこそ、希望の持てるまちを後世に引き継いでいくため、「くらし 高まる たかねざわ」をキャッチフレーズに、また、まちづくり基本条例にもありますように「結の心」を持って町民の皆さまと真に一体となって協働のまちづくりにまい進する所存であります。

議員各位並びに町民の皆さまには、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信といたします。